

母校の115回文化祭「南魂祭」に行く

「南魂祭」が一般参加を受け入れ、9月9日～10日に開催されました。コロナ禍で未開催、生徒のみの開催を経て、ようやく一般人に開放されたのです。

9月10日、庶務の溝口と瀧口が久々に文化祭を訪れました。屋上からのクラスの垂れ幕が飾られ、10時に受付でプログラムと学校案内をいただき、入校します。

まず、宮嶋淳一校長先生に挨拶したのち、太鼓部顧問の今川健治先生にお会いして、奄美大島での全国総文の太鼓競技会の活躍の話を聞きました。あかね会からは、川崎副会長ら4人が応援に行きましたが、1～2位の入賞とならず残念な結果でしたが、頑張って演奏ができたとのことでした。

あかね会では、南魂祭で8期生による売店の「あかね屋」を計画していました。しかし、8期生の準備が間に合わず、今年は参加ができませんでした。来年は実施できるように、卒業生を支援したいと思います。

今年のランチルームでは、4年生、5年生の



3クラスが、飲み物、だんご、アイスのほか弁当、パン、おにぎりなどを販売していました。

楽しみの南多摩フィルと太鼓部の演奏は、かつては毎日開催で延べ2回の演奏でした。昨年以来、1回の演奏に変わり、太鼓部は1日目の10時、南多摩フィルは2日目9時からで、10時行った私たちは聴くことができませんでした。

10時半から開催した演劇部の「トリコロール」という演劇を見ました。4人で行う劇ですが、1時間にわたる台詞を覚えて演じる生徒に、拍手喝采です。

その後、写真部の発表、科学部の発表、写真部の発表、社会科の発表、将棋部の発表を見ました。

12時からは視聴覚教室で合唱部の発表です。10人の部員しかいませんが、頑張っている姿が目に見え、5曲を歌い、その後、昭和38年卒業生の郡司博さんが作詞・作曲した「無限の粒」で締めくくられました。

会場内では、常任委員の山口慶助さんにもお会いしました。以前の南魂祭では、あかね会ブースであかね会クイズの対応などで、ご参加いただきました。

12時半過ぎに学校見学を終えました。

